

番号	試験科目	建築物石綿含有建材調査に関する基礎知識	配点	10問 30点	正解
問題1	「石綿の種類と定義」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選ばない。				③
	①	石綿障害予防規則においては、「石綿等」とは、労働安全衛生法施行令第6条第23号に規定する石綿等をいい、石綿もしくは石綿をその重量の0.1%を超えて含有する製剤その他の物をいう。			
	②	「石綿」とは、繊維状を呈しているアクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライトおよびトレモライトをいう。			
	③	製造等の禁止の対象となるものには、塊状の岩石であって、これに含まれるクリソタイル等が繊維状を呈していないものも含まれる。			
問題2	「石綿の有害性」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選ばない。				④
	①	吸入性石綿繊維については、世界保健機構(WHO)やILOでは、長さとの比を3:1以上でかつ幅3 μ m未満としている。			
	②	石綿繊維を含む粉じんのヒトへの吸入経路は鼻腔→咽頭→喉頭→気管→気管支→細気管支→肺胞道→肺胞囊である。			
	③	石綿繊維は幅が極めて細いので、長さ数十 μ mの長い石綿繊維が肺内に検出されることもまれではない。			
問題3	「胸膜中皮腫の発症リスク」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選ばない。				②
	①	胸膜中皮腫の発症リスクは暴露開始からの経過年数の3乗ないし4乗にも相関すると考えられている。			
	②	胸膜中皮腫の発症リスクはクリソタイルのリスクを1とすると、アモサイトやクリシドライトは10～15倍と言われている。			
	③	胸膜中皮腫の発症リスクは石綿の種類によって異なり、クリシドライトが最も危険性が高く、次いでアモサイト、クリソタイル、アンソフィライトの順である。			
問題4	「喫煙の影響」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選ばない。				③
	①	粉じんの吸入11ヶ月後の肺内の残留率を比べると、非喫煙者では約10%であったのに対し、喫煙者では約50%であったという報告がある。			
	②	石綿が体内に長く滞留することは、中皮腫や肺がんの原因になると言われている。			
	③	石綿は非喫煙者に対しては、肺がんのリスクを高めるようなことはない。			
問題5	「石綿含有建材のレベル分類」に関して、次のうちレベル1に該当しなものはどれか選ばない。				①
	①	スレートボード			
	②	石綿含有吹付けロックウール(乾式)			
	③	湿式石綿吹付け材			
	④	石綿含有吹付けパーミキュライト			

問題6	「石綿含有建材のレベル分類」に関して、次のうち レベル1に該当するものはどれか 選びなさい。		④
	①	スレートボード	
	②	せっこうボード	
	③	ビニル床タイル	
	④	石綿含有吹付けパーミキュライト	
問題7	「建築物内の石綿繊維数濃度」に関する次の文のうち、 誤っているものはどれか 選びなさい。		②
	①	石綿繊維数濃度の計測方法には、「位相差顕微鏡を使用する方法」と「電子顕微鏡を使用する方法」がある。	
	②	「位相差顕微鏡を使用する方法」での濃度は石綿を含んだ繊維数濃度ではないため、健康影響においては安全サイド側に立ってみることができない。	
	③	吹付け石綿のある部屋の石綿繊維数濃度は、吹付け時の仕上げ状態、吹付け時からの時間の経過による経年変化やその他の要素によって異なる。	
	④	吹付け石綿が使用されている天井にポールや棒をあてる場合と、ほうきでこする場合は、100倍以上ほど石綿繊維数濃度の差がある結果が報告されている。	
問題8	「建築物石綿含有建材調査にあたっての留意事項」に関する次の文のうち、 誤っているものはどれか 選びなさい。		④
	①	調査にあたってはできる限り石綿を吸入しないように、防じんマスクの着用、帯電防止の作業衣の着用を行う。	
	②	石綿の有無が不明な吹付け材、断熱材、保温材、耐火被覆材を調査する時は、該当部位からの飛散を防止するため、必ず該当部位の湿潤化を行う。	
	③	S造(鉄骨造)の建築物を調査する場合、特に鉄骨に耐火被覆が施されているときは、吹付け材が劣化等により天井裏に堆積しているおそれがあるため、点検口からの調査の際、点検口からの粉じんの飛散に留意する。	
	④	板状のものは、図面上無含有建材との記載があつたとしても、石綿含有の場合もあるが、逆に図面上石綿含有建材との記載があれば、無含有という場合は絶対にないことに留意する。	
問題9	「建築物石綿含有建材調査の概要」に関する次の文のうち、 誤っているものはどれか 選びなさい。		④
	①	建築物の所有者や建物管理を所有者から受託している業者などから竣工年、改修履歴などの情報を入手する。	
	②	設計図や竣工図などの図書類の調査を実施し、目視調査時の確認ポイントなどを洗い出す作業を実施する。	
	③	実際の目視調査から分析による判断が必要な箇所を抽出した上で、的確に使用されている材料を代表する分析試料を採取する。	
	④	書面調査。目視調査の結果から、「石綿含有建材有無に関する事前調査報告書」を作成し、そのあとで分析調査を行う。	
問題10	「リスクコミュニケーション」に関する次の文のうち、 誤っているものはどれか 選びなさい。		③
	①	2017(平成29)年、環境省から「建築物の解体等工事における石綿飛防止対策に係るリスクコミュニケーションガイドライン」が公表されている。	
	②	リスクコミュニケーションの定義では、「解体等工事における石綿飛散に係るリスクや飛散防止対策の内容と効果などに関する正確な情報を、工事発注者または自主施工者と工事受注者が周辺住民等や地方公共団体等関係機関と共有し、相互に情報や意見を交換して意思疎通を図ること」と定められている。	
	③	石綿含有建材調査者が「石綿の使用の有無に関する事前調査」の調査結果に対する説明を、建築物所有者などに代わって、該当地域の住民等に行うことは絶対でない。	
	④	リスクコミュニケーションを行うための準備として、①実施時期、②対象範囲、③情報提供事項、④情報提供方法の検討・決定、⑤問い合わせ等の準備をすることになる。	

番号	試験科目	石綿含有建材の建築図面調査	配点	10問 30点	正解
問題11	「建築基準法の防火規制に着目する方法」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選 びなさい。				③
	①	建築基準法では、防火規制に基づき耐火構造または不燃材料などが求められる部分 にその性能を備えた石綿含有建材が使われることがあった。			
	②	建築基準法では、建築物の用途、規模、地域に応じて、建築物の壁や柱などの主要構 造部を耐火構造や準耐火構造とすることなどが義務づけられている。			
	③	建築基準法で、国民の生命、健康及び財産の保護を図るために、建築物の防火規制 を定めていることはないが、消防法で規制がされている。			
問題12	「要求される耐火性能」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選 びなさい。				①
	①	耐火建築物の階数によって要求される耐火性能が異なることはない。			
	②	耐火性能は、「1時間耐火」などと表現される。「1時間耐火」とは、1時間の火熱でも構 造耐力上支障のある変形、溶融、破壊その他の損傷を生じない性能をいう。			
	③	「1時間耐火」よりも「2時間耐火」の方が、より高い耐火性能を示すことになる。同じ吹 付け石綿であれば、「1時間耐火」よりも「2時間耐火」の方が、吹付け層が厚かった。			
問題13	設計者の設計思想や要求性能に着目する方法」に関する次の文のうち、誤っているものはど れか選 びなさい。				①
	①	断熱や結露防止を目的として吹付け石綿等の石綿含有建材が使用されていることはあ るが、吸音などの性能が必要な部位に使用されることはない。			
	②	機械室や電気室などに設置された設備機器からの騒音の発生する箇所では、壁・天井 などに吸音目的で吹付け石綿が施工された。			
	③	音響性能が要求されるホールや会議室・音楽教室などには、パーミキュライトや仕上げ 材と併用して吹付け石綿が使用されることがある。			
問題14	「レベル1の石綿含有建材」に関する記述のうち、誤っているものはどれか選 びなさい。				③
	①	レベル1の石綿含有建材の使用目的には耐火や断熱・結露防止、吸音があり、目的に よって種類を限定できることがある。			
	②	石綿含有吹付けパーライトは、耐火構造認定(旧:指定)を取得した経緯がないので、耐 火被覆が必要とされる部位には使用されていることはまずないと考えられる。			
	③	湿式工法による石綿含有吹付けロックウールは表面が硬いので、吸音(遮音ではない) の性能が求められる部位に多く使用された。			
問題15	「レベル3の石綿含有建材」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選 びなさい。				②
	①	レベル3の石綿含有建材とは、レベル1(石綿含有吹付け材)、レベル2(石綿含有保温 材・耐火被覆材・断熱材)に該当しない残りのすべての石綿含有建材のことである。			
	②	輸入された石綿の大半がレベル3の石綿含有建材に用いられることはなかった。			
	③	いろいろなメーカーが多種多様な製品を開発し、市場に流通していたため、同様の石綿 含有建材であっても、なる名前が付けられていた。			
	④	主なレベル3の石綿含有建材は、「目で見るアスベスト建材(第2版)」に記載されてい る。			

問題16	「レベル3の石綿含有建材」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		④	
	①	各建材メーカーは、自主的に1989(平成元)年7月製造分より石綿含有建材であることを示すアルファベットの「a」の字を石綿成形板の見やすい箇所に表示し、識別を容易にしている。		
	②	例えば、aマーク表示がないからといって、早計に石綿無しと判断しないよう注意が必要である。		
	③	1989(平成元)年7月から1995(平成7)年1月25日までは、石綿含有率が5重量%超の製品を対象にaマークが表示された。		
	④	aマークの表示は一般的に商品1枚に1箇所なので、aマークがない場合は「石綿無含有品」であると言える。		
問題17	「建築確認図」に関する次の文中の(A)と(B)に入る語句として、正しいものはどれか選びなさい。 「建築物を建設するにあたり、管轄する関係官庁(建築指導課・消防署など)に建築物を建てる許可を得るために(A)や各申請書類などを提出する。この時の図面を(B)と言う。」		①	
		A		B
	①	建築確認申請書		建築確認図面
	②	建築確認申請書		建築仕様書
	③	建築構造計算書		建築確認図面
④	建築構造計算書	建築仕様書		
問題18	「建築図面の入手および発注者へのヒアリング」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		②	
	①	書面調査では、建築確認図などの設計図書を建築物所有者から借用することになり、建築物所有者など関係者の許可が必要である。		
	②	建築図面などの借用時には、その使用目的と不要な部分の閲覧・複製をしない旨の説明が必要である。説明した目的以外のために閲覧・複製してはいけないが、複製であれば使用後に返却する必要はない。		
	③	借用時には必ず借用書を作成し、借用した図面の種類や設計図書名を記し提出し、返却の際には図面・書類を借用書に基づき返却を確認し、後日トラブルが発生しないよう十分な注意が必要である。		
④	建物所有者や建物管理者等関係者から建設図面を入手したら、設計図書、過去の調査記録等の確認を行う。			
問題19	「書面調査結果の整理」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		③	
	①	書面調査で得られた情報については、目視調査において効果的に活用できるよう、整理する必要がある。		
	②	目視調査での動線計画の策定として、各階の平面図に。現地のどこからどのように調査していくかの順番を想定し、全ての部屋・空間に番号を付ける。		
	③	書面調査結果をコピーして、必要に応じて目的別に書き込みができるように、目視調査に持参することは、禁止されている。		
④	建築図面が全くない場合は、目視調査に記録用紙を持参し、各階を目視の上、各階の概略平面図などのスケッチを作成する。			
問題20	「関係法令との問題点」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		②	
	①	一戸建て住宅も、他の建築物同様に現地調査の前に調査対象建築物がどのような建築物であるのかをひととおり把握するために建築図面を調べ、書面調査を行う。		
	②	建築基準法第1条には「建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する最低の基準を定め」と記されている。建築基準法で定めている仕様は、設計を行う上での推奨値である。		
	③	建築物の実際の設計では顧客の要求により、さらに高い水準が求められることが多く、そうした要求に応える手段の一つとして石綿含有建材が使用されてきた。		
④	一戸建て住宅においては、断熱や結露防止、吸音などを目的として吹付け石綿が使用されることはまれであるが、調査の過程で使用が判明することがある。			

番号	試験科目	現場調査の実際と留意点	配点	10問 30点	正解
問題21	「調査フロー」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選りなさい。				②
	①	事前に得られた情報を整理し、調査に必要な人数は何人か、どのような前段取りや機材が必要か、予想される事態は何かなど調査全体にわたる計画を事前に検討しておく。			
	②	依頼主から調査計画書の提出を求められることはない。			
	③	調査全体のフローを考えてそれに沿って行動することは、経費や労力の低減、調査の正確性や信頼性の確保において最適な方法である。			
	④	目視調査では、書面調査で得た情報(竣工図および改修時の図面情報等)と現地情報との整合性の確認を行う。			
問題22	「目視調査に臨む基本姿勢」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選りなさい。				③
	①	調査には迅速性が必要だが、場所によっては落ち着いて、時間をかけて調査を行う必要がある。			
	②	入室したドア近辺から、一部の天井や壁だけを目視して対象物の有無を判断してしまうような、粗雑な調査をしなければならない。			
	③	万一の粉じん等の落下にも対処するため、事前にシートを広げておく、ウェットティッシュやブロー(送風機)で清掃することなどは必須事項である。			
	④	機械室等狭い部がある調査では、調査時に柱や壁に作業等が接触し、粉じんが付着する可能性もある。			
問題23	「調査者の労働安全衛生上の留意点」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選りなさい。				④
	①	調査者は、石綿含有建材の試料を採取する際には、自らの石綿ばく露防止とともに周囲への石綿飛散防止対策に努めなければならない。			
	②	試料採取時に石綿ばく露する可能性のある人を最小限にするため、周囲に人がいないことなどを確認する必要がある。			
	③	採取者だけでなく補助員、立会人も呼吸用保護具を使用する。			
	④	安全措置が確保できていないような箇所では、決して無理な調査をしない。何よりも安全が第一であり、危険な箇所の場合には、調査報告書には「石綿なし」の記載をすべし。			
問題24	「レベル3の成形板の裏面等調査」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選りなさい。				④
	①	成形板裏面確認時、厚さも確認する(天井点検口があれば調べやすい)。天井点検口の材料は、天井使用材とは違う可能性があることを考慮する。			
	②	一つの天井・壁の使用材料の3以上の建材に同じ製品が使用されているかを目視確認し写真に収める。企業名、商品名、不燃番号、ロット番号などを詳細に確認する。			
	③	裏面の不燃番号等が判明したら、スマートフォン等を活用し、すぐに石綿含有建材データベース(Web版)にて確認する。			
	④	天井・壁等の裏面の情報が確認できれば、建材を製造していたメーカーがすでに存在しないということは、ありえない。			
問題25	「改修工事・増築工事を見落とさない調査」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選りなさい。				③
	①	増築や改修を行った場所を見落とさないためには、建築物の所有者や利用者などへのヒアリングが重要となる。			
	②	同一の部屋であっても試料採取の場所がわずかに異なるだけで、時代の違う材料を採取してしまうおそれがある。			
	③	外壁では新築時の仕上げ材の上を改修時にパネル構造の仕上げ材(サイディング材)で覆っていることがあるが、石綿を含む建材が使用されていることはない。			
	④	空調機械室や天井点検口から天井裏のスペースを見たとき、放置されているダクトや配管があれば、過去に改修工事が行われた証拠であり、仕上げ工事で天井板などの改修が行われたと考えられる。			

問題26	「試料採取箇所の選定」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		①
	①	天井、はり、柱、壁に同様の吹付け石綿が施工されている場合は、どこか1カ所に絞って採取することが望ましい。	
	②	人が出入りするなどして接触する機会の多いドア周辺や、電気スイッチ類の近辺からの採取は避けるようにしたい。	
	③	使用中の建築物の調査では、できるだけ目立たない場所で採取するよう配慮することが望ましい。	
問題27	「試料採取の際のその他の留意点」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		②
	①	ホールソーなどで試料を切断する場合は必ず隔離し、HEPAフィルター付き真空掃除機で吸引しながら採取する。	
	②	一体化した建材の塗装や表面被覆材または接着剤などの素材や層の一部に石綿が含有されている場合の試料は、一番上の層から採取しなければならない。	
	③	天井材の試料採取を行う場合、天井点検口のふた部分の天井材から採取してはいけない。	
問題28	「調査者による分析機関の選定について」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		③
	①	調査者は、石綿則に定められた資格要件を持つ分析者を有する分析機関を選定する必要がある。	
	②	分析者に分析結果の内容について質問するためには、調査者も分析についての知識を得る必要がある。	
	③	分析機関の選定にあたって、調査者が分析機関に対して石綿分析の技術者教育計画と教育記録を提出させることは失礼にあたるので、やってはならない。	
問題29	「建材の石綿分析法の変遷」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		②
	①	建材中の石綿含有率の基準値は5重量%から1重量%、0.1重量%へと安衛令の改正に伴い時代とともに低い値に推移してきた。	
	②	2008(平成20)年に、初めて国内で主に使用されていた3種類のアスベストが分析対象となった。	
	③	2012(平成24)年と2014(平成26)年には、国際標準規格の定性分析法と定量分析法が発行され、2014(平成26)年にJIS化された。	
問題30	「調査票の下書きと分析結果チェック」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		②
	①	調査者は、分析資料を分析機関に送付したら部屋別の目視調査個票を作成すべきである。	
	②	目視調査個票は、調査した部屋の順番ではなく、石綿の含有が多いと思われる順番に変えて作成することが望ましい。	
	③	分析結果は目視調査総括表に記入するが、分析機関から結果速報や分析結果報告書を受領したら、調査者は速やかにチェックを行う必要がある。	
問題30	④ 調査者は分析結果について学ぶとともに、分析結果報告書のチェックの仕方や添付された分析写真やチャートの見方についても経験を積む努力が必要である。		

番号	試験科目	建築物石綿含有建材調査報告書の作成	配点	5問 10点	正解
問題31	「石綿含有建材有無に関する事前調査結果報告書」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選りなさい。				①
	①	調査報告書の記入にあたっては、対象物件の概要として建築物所在地は、地番・家屋番号を記入する。			
	②	ヒアリングの対象になった所有者のみの情報ではなく、所有者の代理者・代理者の肩書など誰にどのようなヒアリングを行ったのかを詳細に記録する。			
	③	構造上・立地条件等の問題で試料採取が不可能な箇所については詳細を調査報告書に記載しなくてはならない。			
	④	含有建材、無含有建材の判断根拠は詳細報告書に記載するが、含有建材と「みなす」理由は調査依頼者に尋ねられる場合も多く、簡潔に書くことが必要である。			
問題32	「調査詳細報告書」の記入にあたっての注意事項に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選りなさい。				④
	①	調査の種類は、解体・改修工事前の調査なのか、その他の調査なのかを記入する。			
	②	実施者は、氏名、資格名、資格認定(登録)番号、書面調査と目視調査それぞれに書く。			
	③	各部屋の調査結果について、左から、通し番号、階数、部屋名、部位を記入する。			
	④	書面調査の項目のうち、石綿含有の可能性の欄には、書面調査の段階で判断できない場合は「あり」と記載する。			
問題33	「調査詳細報告書」の目視調査の項目の記入にあたって、次の文の中で誤っているものはどれか選りなさい。				②
	①	整合性の確認として、書面と現地が整合する場合は○、整合しない場合は×で明示する。			
	②	材料名は整合する場合のみ記録し、整合しない場合は記録しない。			
	③	写真番号は、整合性の確認状況写真と試料採取等の状況写真の番号などを記入する。			
	④	採取位置は、試料採取位置図との連携を記載する。			
問題34	「分析試料採取位置図」の記入に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選りなさい。				③
	①	分析試料の採取場所、試料ナンバー、3カ所からの採取状況が分かるように平面図に記載する。			
	②	書面調査で分析しなければならない建材を洗い出したものを、現地調査において分析対象建材を確定して試料採取をする。			
	③	施設規模、敷地内棟数によって、試料採取数が変わらないように、全て10以内とする。			
	④	同一と考えられる建材の範囲ごとに、原則として3カ所以上からの試料を採取すること。			
問題35	「石綿を含む部材の劣化の記録」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選りなさい。				③
	①	レベル1, 2は、粉じんが比較的飛散しやすく、少しのダメージで破損が生じることとなる。			
	②	劣化の進行度を定期的に測定することは、調査者の熟練した眼力によるところが大きくなる。			
	③	石綿劣化の判定は「劣化」または「劣化なし」という二極化した分類とし、「やや劣化」という判定はない。			
	④	漏水などによって部分的に劣化が進行しつつある状態などは「やや劣化」と判定する。			